

➤ 防護柵

課題	・車両の通行速度が高く、車道外に逸脱する危険がある。 ・歩行者の車道へのはみ出しや乱横断が発生している。
対策内容	主に車道と歩道の境界に防護柵を設置し、歩行者と車両を分離する。
効果	自動車が車道から逸脱することを防止することにより、歩行者等の通行の安全性の確保が図られる。また、歩行者等がみだりに車道にはみ出したり、道路を横断したりすることを防止することにより、歩行者等の通行の安全性が確保される。

カーブ区間の危険箇所にガードパイプを整備（北海道開発局函館開発建設部）

○対策前



- ・下り坂のカーブで通行車両が歩道に逸脱する可能性がある

○対策後



- ・歩車道境界にガードパイプを設置

歩行者が車道にはみ出す箇所へガードパイプを整備（石川県）

○対策前



- ・歩道が狭く、児童が車道にはみ出し危険な状況
- ・通勤時間帯は交通量が多い

○対策後



- ・歩車道境界部にガードパイプを設置し、児童の安全を確保

一方通行化と連携した路側帯・ガードパイプの設置（神奈川県 ^{よこすか}横須賀市）

○対策前



- ・ 抜け道利用の車両が多く、路側帯も無いため、危険

○対策後



- ・ 一方通行規制により車道部を縮小し、ガードパイプ、外側線を設置
- ・ ゾーン 30 エリア指定による速度規制

トンネル内歩道へのガードパイプの設置（北海道開発局室蘭開発建設部）

○対策前



- ・ 歩道幅員が狭隘であり、通過車両も多いため、危険

○対策後



- ・ トンネル内の歩車道境界部にガードパイプを設置し、児童の安全を確保